

おやこミ note



子どもたちの
幸せのために



いしかわの
未来のために



子育てを社会全体で
支えるために



子育てしやすい
環境をつくるために

2009

ISHIKAWA
財団法人 いしかわ子育て支援財団
KOSODATE



つながろう、未来に。
—子育てをみんなで支える社会めざして—

家庭から、地域へ、企業へ、社会へ——
子どもたちの未来を光に満ちたものとするために、
すべての人が立ちあがり、
つながる時が訪れています。

いしかわ子育て支援財団は、
あたたかな眼差しと、支える手と、
包み抱く胸をここに差し出して、
子育てを社会全体で支える
仕組みづくりのための
多彩な活動に取り組んでいます。

いしかわ子育て支援財団の主な活動

人材確保・養成

- 育児サポーター・保育ママの養成
- 子育て拠点施設従事者などの研修ほか
- 異世代交流活動の指導者の養成

情報提供調査

- 「子育て支援人材バンク」への人材募集と登録
- 「いしかわおやコミ.net」の運営による情報提供ほか
- 子育て支援情報誌の発行など
- 心のふれあいプロジェクトの実施

子育て相談

- デパートなど大型店での休日育児相談室の開設
- パソコン・携帯メールによる育児相談

広報・啓発

- 子育て支援策や財団の活動などを伝える広報誌の作成
- 「子育て支援メッセ」の開催
- 「おはなし広場」の開設
- しあわせアドバイザー「縁結びist」の活動支援や交流サロンの運営など

子育て家庭のバックアップ

- プレミアム・パスポート事務局の管理運営
- 育児教室や育児サークル活動などへの育児サポーター派遣
- 子育てセミナーの開催や育児サークル交流活動などへの支援
- イベント会場での保育室開設など
- いしかわ子ども交流センターの管理運営



おやコミ **note**
oyacom note
CONTENTS

暮らしにとけ込む、全国に広がる

プレミアム・パスポート

4

社会全体で子育てを応援

ふるさと いしかわ子育て応援ファンド

6

学校に赤ちゃんがやって来た!

赤ちゃん登校日

7

出会いが欲しい人の、頼もしい味方

しあわせ発見事業

8

いしかわ発

エンジェルソング「子育ての詩」^{うた}

10

子育てを社会全体で支える仕組みの構築に向けて

oyacom note TOPICS

11

子育てのスペシャリストをパワーアップ

研修事業

12

“子どもの育ち”と“家庭の子育て”の応援拠点

いしかわ子ども交流センター

13

わからなかったら、困ったらー

情報コーナー

14

暮らしにとけ込む、
全国に広がる
新しい試みも次々と、
プレパスの進化は続く



プレミアム・パスポート

有効期間を3年に らくらく自動更新

手軽に
なったね!

18歳未満の子どもを3人以上持つ家庭に、協賛企業から多様なサービスが提供される「プレミアム・パスポート」事業。「毎日の買い物で割引してもらえるから大助かり」「銀行ローンが優遇された」…。利用者の評判は高く、利用世帯に着実に浸透しているようです。開始から3年、利用者の満足度を高めるために改善策がいくつか講じられました。

大きな改善点はまず、パスポートの有効期間が延長されたこと。これまでは1年ごとに更新が必要で、「手続きを忘れる」などの声が上がっていました。そこで平成21年1月より有効期間が原則3年となり、手続き不要の自動更新へと変更。利用者の手間が大幅に省略されました。

協賛店舗が2000店に 負担軽減で 加入に弾みを

加入して
よかった!

企業ぐるみ、地域ぐるみで子育て支援、というプレパスの成果が数字となって現れてきています。「子育てにやさしい企業推進協議会」(事務局 いしかわ子育て支援財団)では当面のプレパス協賛店舗の目標数を2000店としていましたが、平成20年8月に目標を達成しました。ちょうど2000店目に登録したのは、金沢百番街内の喫茶チエダー。谷内迪



◀プレパス協賛店2000店目に登録した喫茶チエダー

子協議会事務局長(財団専務理事)が同店を訪れてステッカーを交付し、目標達成を喜びました。

「お客様が喜んでくれてうれしい」「自店の利益だけでなく社会貢献にもなる」。協賛店・協賛企業からもプレパス加入を喜ぶ声が寄せられています。そこでさらに加入店舗数を増やそうと、平成21年1月から協賛店の負担が軽減されました。これまでは1店舗につき1年間5000円の協賛金が必要でしたが、加入期間や保有店舗数に応じた減額措置がとられています。

また、地域の活性化をめざして石川県と中日本高速道路が包括的な連携協定を締結したことにより、県内の高速道路のサービスエリアやパーキングエリアでもプレパスが使えるようになりました。

さらに多くの方が 参加できるように

みんなが
うれしい!

プレパスや協賛企業をもっと多くの方に知っていただくこと、多様な取り組みが進行中です。「プレパスお店めぐりキャンペーン」は、県民なら誰でも参加できる企画。プ

全国初のユニークな子育て支援策として、平成18年にスタートしたプレミアム・パスポート(プレパス)。そのアイデアと実効力はさまざまな自治体や関係者の関心と呼び、同様の取り組みが全国的に広がっています。制度導入から3年、“子育て先進県”石川のシンボリック存在に成長したプレパスの現況をレポートします。

レパス協賛店のレシートを5店舗分(合計3000円以上)集めて応募すると、抽選で賞品がもらえます。毎月多数の応募があり、利用者からも協賛企業からも好評を得ました。

また、毎月19日の「県民育児の日」には、来店時に18歳未満の子どもを一人以上連れていくと特典が受けられる「チャイルド・プレミアム」も行われ、県民の参加が広く呼びかけられています。



▲チャイルドプレミアム協力店の目印

ネットで利用できる プレパス商店街開設

もっと
便利!

また、子ども関連商品などを扱うバーチャルモール「プレパス商店街」の開設作業も進んでいます。これまでは協賛企業(店舗)の店頭でしかサービスが受けられませんでした。プレパス商店街がオープンすれば、プレパス所持者は家に居たまま、インターネットを通じて買い物したり、特典を受けたりできます。乳幼児がいて外出のままならない方も、過疎地のため近くに店舗のない方も、店頭と同様の特典が受けられるようになり、地域間の格差が是正されます。なお、開設に関する諸費用には「ふるさと いしかわ子育て応援ファンド」の寄付金が活用されています。(平成21年春オープン予定)



1家族に2枚交付される
プレミアム・パスポート

PREPASS
HOT
TOPICS

自治体でただ一つ 石川県に大臣表彰



▲「につけい子育て支援大賞」表彰式
=平成19年1月



▲「ワーク・ライフ・バランス大賞」表彰式
=平成19年11月



▲小淵優子少子化担当大臣から第1回「子どもと家族を応援する日本」功労者表彰を受け取った谷本石川知事
=11月13日 東京都 日本学術会議講堂

企業も、お店も、県民も。
支えあい繋がりあって成長する
いしかわ発の子育て応援に、
日本中が注目。

「プレミアム・パスポート」事業や「ふるさと いしかわ子育て応援ファンド」などの先駆的事业が評価されて、全国の自治体では唯一、石川県が、内閣府主催の第1回「子どもと家族を応援する日本」功労者表彰を受賞しました。この表彰は、子育て支援活動に功績のあった企業や団体、個人に贈られるもので、11月13日、小淵優子少子化担当大臣が谷本正憲石川県知事に表彰状を授与。谷本石川県知事は式後に行われたシンポジウムにパネリストとして出席し、石川県の取り組みを披露しました。

石川県ではこれまでに、第1回「につけい子育て支援大賞」(平成19年1月受賞)や、第1回「ワーク・ライフ・バランス大賞」優秀賞(平成19年11月、「子育てにやさしい企業推進協議会」とともに受賞)など、数々の表彰を受けています。これらの受賞により、子育て支援における石川県の先進ぶりが改めて示された形となりました。

PREPASS
HOT
TOPICS

プレパスの輪、全国へ 初の全国大会を開催

▶「企業参加の子育て支援事業全国大会」で
主催者としてあいさつをする谷本石川知事
=11月21日 金沢市 ホテル金沢



◀自治体や協力企業などの事例発表も実施された
=11月21日 金沢市 ホテル金沢

プレパスは今や日本中に拡大し、同様の取り組みが石川を含め40もの道府県で導入されています。そこで、情報交換や交流を通じて事業の充実化を図ろうと、初となる“プレパス全国大会”(「企業参加の子育て支援事業全国大会」)が開催されました。11月21日・22日の2日間、金沢市のホテル金沢を会場に、国や府県、市、企業などから約110名もの担当者が集合しました。

大会1日目は、内閣府による基調報告や、自治体・協力企業などの事例発表を実施。熱心な情報交換が行われ、全国規模のサービスや広域連携への国の支援を求める声が相次ぎました。2日目にはプレパス協賛店などの視察が実施されました。

いしかわ子育てスタイル
べんり〜な

プレミアム・パスポート情報を掲載。プレパス家族の毎日のお買い物やお出かけなどに便利でお得な情報が、地区別・目的別に掲載されています。
毎月19日の「県民育児の日」に特典が受けられる「チャイルド・プレミアム」協力店情報も掲載しています。



子育て支援の輪をさらに広げ、 社会全体で子育てを応援するために

「ふるさといしかわ子育て応援ファンド」基金事業

「ふるさといしかわ子育て応援ファンド」基金は、県内6つの金融機関が金利を優遇した商品を発行して資金を募り、運用益の一部を「子育てにやさしい企業推進協議会」に寄付するという支援事業。寄付金は「赤ちゃん登校日授業」をはじめ、様々な子育て支援活動の運営資金となっています。

◆◆◆「ふるさといしかわ子育て応援ファンド」基金を活用した事業◆◆◆

いしかわプレパス商店街事業

プレパス協賛店が提供する商品・サービスなどを、インターネットで利用できるバーチャルモール「プレパス商店街」を開設します。

プレパスお店めぐりキャンペーン事業

プレパスを持っていない方も参加できるキャンペーン。プレパス協賛店のレシート5店舗分を集めて応募してもらい、当選者に景品をプレゼントします。

チャイルド・プレミアム普及啓発事業

「チャイルド・プレミアム」は、毎月19日の「県民育児の日」に、18歳未満の子どもを一人以上連れの方に行われるサービス。事業のさらなる周知と利便性向上が図られています。

ノトロの森プロジェクト

能登の豊かな自然が舞台。親子で体験活動などを行いながら能登半島を一周し、自然とのふれあいや共同作業を通して親子の絆を深めていくプロジェクトです。

県民や企業のアイデアを生かした事業

県民や企業、NPOなどから広く子育て支援のアイデアを募集。平成20年2月、応募47件の中から次の2事業が採択されました。

●子育てタクシー

働く親の負担を軽減するために、通園通学や塾の送迎などを保護者に代わってタクシーが行うサービス。石川県タクシー協会の16のタクシー会社が、子ども用シートなど専用の装備をした車両を用意しています。対象となるのは3歳から12歳の子ども。利用にあたっては保護者による事前登録が必要です。



【問い合わせ先】石川県タクシー協会 TEL :076-232-1348

「ふるさといしかわ子育て応援ファンド」基金 協力金融機関

北國銀行	金沢信用金庫	のと共栄信用金庫
北陸信用金庫	鶴来信用金庫	興能信用金庫

赤ちゃん登校日授業

乳児とその保護者が小学校を訪問。児童・生徒に乳児とのふれあい体験の機会を提供します。

独身向け少子化講座実施事業

独身男女を対象に、結婚の実情や異性とのつきあい方のノウハウなどについて情報提供する講座を開催します。

まちの子育て応援商店街づくり事業

子育て真っ最中の世代を応援する場や機会を提供し、商店街の活性化につなげようという取り組みです。

●わいわい子育てストリート

商店街の空き店舗対策の一環。新規開設した子育て支援スポット「兼六大通りわいわい子育てルーム」を通じて、地域の商店街になじみの薄い若い世代にも商店街を利用してもらうという取り組みです。てづくりおもちゃインストラクター、高砂二郎さんが「子育てルーム」を運営、オープニングイベント「わいわい子育てストリート」が行われました。



●三世代農業体験塾

金沢市の特定非営利活動法人「一歩一歩楽園」の企画提案によるもの。米づくりや芋掘り、野菜づくりといった農作業を、親、子、孫の三世代が一緒に体験学習する場を開設。共同作業や地域文化体験を通して子の育ちを促すとともに、親に子育てのすばらしさや大切さを学んでもらおうという試みです。



【問い合わせ先】事務局 林(携帯) 090-3762-6887

赤ちゃんとのかわりを通して 命の大切さ、人への思いやりを学び 「コミュニケーション力」を育てる



人の話が聞けない、人との接し方がわからない…。スムーズな人間関係を築けない子どもが増え、教育現場に混乱を招いています。子どもたちの健やかな育ちを応援することは、いしかわ子育て支援財団の使命。そこで本年度、人間関係力の育成をめざす「赤ちゃん登校日授業」を実施しました。3ヶ月におよぶ体験学習を通して、子どもたちは何を学んだか——全国的にも画期的なプロジェクトの概要をご紹介します。

何をする？何を学ぶ？ 赤ちゃん登校日授業

「赤ちゃん登校日授業」とは、鳥取大学医学部の高塚志准教授が提唱するユニークな学習プログラム。まだ歩くこともできない赤ちゃんとその親に学校へ「登校」してもらい、児童・生徒たちが、赤ちゃんとのふれあう中で他人との関わり方を学び取っていく体験型学習です。人間関係力の育成をめざして、平成18年から当財団が取り組んできた「心のふれあいプロジェクト」の新しいプログラムとして実施されました。

コミュニケーション力を養うための活動ですから、赤ちゃんとその親、児童・生徒との間にはより深い関係が結ばれることが望まれます。そのため「赤ちゃん登校日授業」では、赤ちゃんとは毎回同じ顔ぶれでペアを組み、継続的に交流を行います。最初の舞台となった金沢市立野町小学校では、9月から11月の3か月に渡り、5年生42人が月1回 計3回の交流体験を持ちました。

同授業では、交流活動だけではなく周到な事前学習も重要な要素となっています。野町小学校5年生の子どもたちは、抱っこやおむつ替えといった安全・衛生面から、「見る・聞く・伝える」などのコミュニケーションの基礎までを、あらかじめ学習。自分が生まれた頃の様子を親から聞くなどの体験も織り交ぜつつ、約30名の赤ちゃんとその母たちを迎え入れました。

目を見張る成長、子どもが 学校がこんなに変わる

「赤ちゃんがどう感じているのか、表情をしっかりと見てごらん」「人の話を聞くときは、相手の目をちゃんと見ようよ」

9月5日の第1回登校日、授業を進める高塚氏の声を背に、ぎこちない手つきで赤ちゃんを抱き、おむつを替える子どもたち。

初回は皆、顔に緊張を浮かべていましたが、回を追うごとに表情が和らぎ、最終回の11月4日にはどの子も満面の笑顔。「抱っこすると温かくて気持ちいい」「前に会った時より重くなっている」。絵本を読んだりあやしたり、赤ちゃんとのひとときを心から楽しんでいました。

「子どもの様子も学校の雰囲気もすっかり変わりましたよ」と語るのは、野町小学校校長の山下良夫氏。最近、人の話を聞けない子や言葉の乱暴な子が多いことを案じていたそうですが、今回の授業で子どもたちは大きく成長したといいます。「赤ちゃんの力を借りて人間関係を学び、人の心がわかる子どもになったようです。クラスがギクシャクしては安心して勉強できません。この授業は人間関係だけでなく、勉強面でもいい結果をもたらしてくれるのではと期待しています」

気づく、役立つ、思いやる 赤ちゃん力が必要な理由

ではなぜ赤ちゃんなのでしょう。高塚氏は、「言葉を話せない赤ちゃんともコミュニケーションをとるには、自分から積極的に言葉をかけ、表情をよみ、心を開いていくしかないが、それこそ人間関係の基本。人間関係力を養うには、赤ちゃんが一番」といいます。

また、赤ちゃんの世話をし、自分の幼い頃の話や、子どもは命の大切さや、自分が愛されて大きくなったことに気づいていきます。親の苦勞に感謝する心、他人を思いやる気持ちが芽生え、ふれあった赤ちゃんやその親の役に立てたという役立ち感にも後



押しされて、自己肯定を深め、人間関係力を身につけていく——それが「赤ちゃん登校日授業」のねらいです。授業は同時に、赤ちゃんの親にもメリットがあるようです。児童・生徒が我が子とふれあい、自分の話に耳を傾ける姿に親たちは元気づけられ、子育てへの自信を深めていったように見受けられました。

県内では、野町小学校のほか、加賀市立南郷小学校で12月から2月にかけて実施。また、12月・1月には「子どもゆめ募金」からの助成を受け、金沢市立浅野町児童館と連携して同様のプログラムを実施しました。

「赤ちゃん登校日授業」を学校現場に積極的に導入するには、「指導者の養成と行政のサポートが必須」と高塚氏はいいます。いしかわ子育て支援財団を中心に、取り組みをさらに広げるための環境整備が進められています。



HAPPY PROJECT しあわせ発見

ゴールイン続々。
出会いが欲しい人の、頼もしい味方。



写真上／「七夕で幸せ発見 とどけ! わたしの願い」
＝7月6日 小松市

写真左上／タウンミーティング「スイートオータム in 片町」
＝11月3日 金沢市片町

写真左下／能登地区で開催されたタウンミーティング
「能登で出会いが待ってるよ ドキドキイベント2日間」
＝11月23・24日

若年層の未婚化、晩婚化の進行が止まず、少子化の一因とされています。財団では、少子化対策の一環として、未婚の男女に出会いを提供する「しあわせ発見事業」を推進。「タウンミーティング」の企画や『縁結びist』の活動支援などを行っています。

最近、「婚活」（結婚活動）という言葉がさかんに使われています。就職に「就活」（就職活動）が必要なように、日本は今、結婚をするためには「婚活」が必要な時代が訪れているようです。結婚したいけれど、出会う機会がない、なかなか希望する相手にめぐり会えない…。そうした悩める男女に出会いの機会を提供するのが、タウンミーティングです。

タウンミーティングは毎年、県内の市町を舞台に、趣向を凝らした企画で行われる体験型イベントです。平成17年8月の開始以来、本年度末まで計23回実施。参加人数はのべ1084人に達し、多数の男女が意気投合して交際をスタートさせました。

独身男女はもちろんのこと、未婚の子を持つ親からも、人口減に悩む自治体からも有望な“婚活の場”として熱い視線を浴びています。

繁華街で、里山で 心に響く出会いを演出

「おしゃれな感じで楽しかった」「参加しやすい雰囲気が気に入った」。金沢市片町で11月3日に開催されたタウンミーティング「スイートオータム in 片町」には、参加者からうれしい感想が寄せられました。多くの出会いが生まれ、賑わった片町も、時代とともに様変わりし、出会いが少なくなったと嘆く商店街関係者。「片町を再び“出逢いの街”に」という彼らの思いが込められた集いは、繁華街という魅力も手伝ってか応募が定員を上回る人気ぶりとなりました。

一方、11月23日・24日の2日間に渡って能登地区で開催されたタウンミーティングでは、能登の自然や文化資源を活用した地域創造に取り組む“里山マイスター”が、企画に初参加。空や海といった能登の美しい自然を生かしたイベントが織り込まれ、独身男女36人が星空鑑賞や果実のカクテルづくりなどを楽しみました。

他にも、七夕まつりという機を捉えた小松市、クリスマス時期を意識した加賀市、イタリア料理とライブ演奏を楽しんだ七尾市など、どの集いも企画や演出にこだわったものばかり。担当者たちの努力の甲斐あって、全ミーティングともに参加率が高く、カップルも多数成立しています。

キューピッド大活躍、信頼感増す『縁結びist』

タウンミーティングに協力しているのは、しあわせアドバイザー『縁結びist』と呼ばれるボランティアの方たち。結婚に関心のある男女を取り結ぶ仲介役で、いしかわ子育て支援財団が主催する「縁結びist養成講座」の受講終了者で構成され、平成21年3月現在、265人が登録しています。平成18年から20年の3年間で、成婚に至ったカップルが、98組。

本年度の「縁結びist養成講座」は、7月13日・14日の2日間、能登空港ターミナルビルで開講。奥能登地区を中心に総勢80名、金沢や小松からも受講生が集まりました。「現代の結婚・支援の状況と若者事情」をテーマとした日本青年館結婚相談所・板本洋子氏の講演や、長崎県青年団連合会の事業紹介、県内の結婚支援

活動の状況報告などがあり、講座を無事終えた受講者に『縁結びist』登録証が渡されました。

また、活動中の『縁結びist』の資質向上をめざすステップアップ研修も、金沢、七尾、輪島の各地で開かれました。結婚仲介というデリケートな役回りだけに、個人情報扱い方やトラブル処理、相談者への対応法などについてきめ細かな指導がなされました。

『縁結びist』の活動拠点は、金沢市本多町にある石川県社会福祉会館内の交流サロン。小松、七尾、輪島の各市にはサテライトも置かれ、『縁結びist』相互の情報交換や、結婚を望む男女、その親との相談などに使われています。



板本洋子氏を迎え開催された「縁結びist養成講座」
＝7月13日・14日 輪島市能登空港ターミナルビル

電話相談

毎週火・水・木
9:30～12:00 am.
（※年末年始、祝日を除く）

交流サロン専用電話（共通）

076-223-4807
（夫婦皆幸せ）

『縁結びist』
交流サロン

交流サロン金沢
サテライト七尾
サテライト小松
サテライト輪島



▲熱心に聞き入る参加者たち

▲「他県に学ぶこれからの結婚支援活動」をテーマに行われたパネルディスカッション



▲伝統的な結婚式のしつらいなどの展示も行われた



▲これまでの成婚カップルの幸せな写真も紹介



▲内海桂子氏による基調講演

北陸3県の連携を視野に 縁結び達人200人が集結

平成21年1月30日、「北陸・結婚支援研究会議」と銘打った集いが金沢市のホテル日航金沢で開かれました。集合したのは、石川の『縁結びist』など、北陸三県で結婚支援のボランティアとして活躍中の約200名。活動の一層のレベルアップを図ると同時に、情報の交換や共有を通してネットワークを強化し、県境を越えたカップリングを促進することをねらいとしています。

会議では、いしかわ子育て支援財団の谷内迪子専務理事が石川の結婚支援活動について報告。その後、「他県に学ぶこれからの結婚支援活動」をテーマにパネルディスカッションが行われました。日本青年館結婚相談所の板本洋子氏がコーディネーターを務め、若い登録者が急増した富山結婚相談所の正木照美氏、キャンパスで出会いの場づくりに取り組む仁愛大学（福井県）の清川小有里氏、男性農業

者の結婚支援を進めるJA松本ハイランド農業協同組合（長野県）の濱孝幸氏らが意見交換を行いました。

当日は討議に先立って、漫才協会名誉会長であり、映画「能登の花ヨメ」に出演するなど各方面で活躍中の内海桂子氏が「結ぶ縁、結ばれる縁」と題した基調講演を実施。24歳年下の男性と結婚生活を送る内海氏の結婚観や驚きのエピソードが披露され、会場はなごやかな雰囲気に包まれました。また、これまでに5組以上の成婚カップルを誕生させた『縁結びist』の表彰式も併せて行われました。



●『縁結びist』表彰者のみなさん

・青木 珠彌江	金沢市
・田川 富美子	金沢市
・吉田 千代喜	金沢市
・小橋 徳子	七尾市
・藤岡 とも子	七尾市
・南川 貞夫・南川 真澄	小松市
・北川 千鶴子	白山市 （敬称略）

多くの皆様から寄せられた我が子への想いや、
子育てのすばらしさを綴った歌詞をもとに

川嶋あいさんが作詞・作曲— いしかわ発エンジェルソング 「子育ての詩」

育児不安による児童虐待が増えてきたこの時代。親たちに音楽を通してエールを送りたい、という願いがもととなって実現したのが、石川県といしかわ子育て支援財団による「子育ての詩」です。全国から寄せられた愛の詩が、川嶋あいさんの手を経て、素敵な子育て応援歌になりました。

公募の詩をもとに川嶋さんが楽曲を提供 子育て中のママを励ます歌が完成

石川県の調べでは、平成19年度の県内の児童虐待相談件数は352件。子育てに悩み苦しむ親が増加傾向にある中、企画されたのが、エンジェルソング「子育ての詩」。

育児中の親たちや将来親になるであろう人を中心に歌詞を公募し、プロが曲をつけて子育て応援ソングをつくる企画です。そのねらいは、子育ての不安や喜びを“詩＝言葉”で表現することで、親であることのすばらしさや我が子への愛情を再発見してもらうことにあります。

県内外から寄せられた402作品から優秀作5作品へと絞り込み、シンガーソングライター、川嶋あいさん本人により鍛田恵美子さんの作品が最優秀賞に選ばれました。

親の愛の大切さを強く知る川嶋さんによって完成したのは、包み込むように温かなメロディーにのせられた、子どもからママへのメッセージ。平成21年3月1日に石川県立音楽堂邦楽ホールで披露コンサートを開催しました。育児中のママさんで構成する吹奏楽サークル「アンサンブル☆ふぁみりあ」の演奏にのって流れる、川嶋さんの澄んだ歌声に来場の皆様は聴き入りました。

この「子育ての詩」は石川県の子育て応援ソングとしてCDに収められ、県内の保育所や児童館のほか、プレミアム・パスポート協賛企業などにも配布される予定です。

受賞者のみなさん

【最優秀賞】
鍛田 恵美子
石川県小松市



【優秀賞】
太田 智 秋田県秋田市
岡田 津矢子 石川県金沢市
中田 裕子 石川県野々市町
北山 美穂 石川県野々市町

(敬称略)

ママの手
作詞・作曲 川嶋 あい
原詞 鍛田 恵美子

やわらかい大きなママの手 僕を今抱してくれる
ねんねの時は枕元うたたてくれた
何も話せずに泣いてばかりで それでしか伝えられない
一人ぼっちが絶対嫌だよ いつもそばにいて
魔法をかけてくれる不思議なママの手
淋しいときもお腹すいたときもそんなときも
その手があればずっと乗り越えられる
早く来てほしい こんな小さな僕 お願い守ってね
かせいでつらかったときは腕の中包んでくれた
お星様がキラキラ光る夜空を見てた
困らせてばかりいたけどいつも誰よりも大好きなんだ
いつまでも僕を見守ってね 安心するから
大人になつたときは曲がりなりにも
生まれた意味を見つけてゆけるかな？
イタズラした時は本気で叱ってくれた
それも本当はあたいたかい手なんだ
ごめんね、ありがとう

魔法をかけてくれる不思議なママの手
僕の頭をそっと撫でてくれる あったかい
うれしいときににぎやかなママの手のひら
僕の胸にもうれしさが伝わる
わざとくすったよ



上／「子育ての詩」披露コンサートでは川嶋あいさんのミニコンサートも行われました

中／「アンサンブル☆ふぁみりあ」の演奏にのせて「ママの手」を歌う川嶋あいさん

下／小さなお子様連れの親子がたくさん来場した披露コンサート

＝平成21年3月1日 石川県立音楽堂邦楽ホール

oyacomit TOPICS

TOPICS 1

太陽の下で
今年もふれあおう！

こども未来の城

＝4月26日・27日 いもり堀園地



ゴールデンウィークの人気イベント「こども未来の城」が、金沢城いもり堀園地で本年度も開催されました。金沢市広坂周辺を会場に開催される「春の舞ひろさか」と連携した恒例の行事。毎年楽しみにしている参加者も多く、大型連休の開幕を家族で楽しもうという親子で賑わいました。

会場にはゲームや工作などが楽しめるコーナーのほか、不要になった育児用品のリサイクルショップもオープン。また、昨年度寄贈された「ミルクCar」もお目見えしました。水道や電子レンジを搭載し、ミルクづくりからオムツ替えまで行える充実機能ぶりが、利用者の皆様から好評でした。



TOPICS 2

日本・親子の絆プロジェクト episode I 日本海・子育て支援メッセ

＝9月15日 いしかわ総合スポーツセンター

地域も企業も
みんなで子育て！

“地域も企業もみんなで子育て”をテーマに、子育て支援に積極的な企業や団体が一堂に集う「日本・親子の絆プロジェクト～日本海・子育て支援メッセ」。例年行われる恒例イベントが本年度も9月に開催されました。会場は、オープン間もない、いしかわ総合スポーツセンター。プレバス協賛企業などが約80の展示ブースを設けて情報交流やPR活動を展開。子育てしやすい社会づくりのためのネットワーク強化に努めました。

また、文部科学省による「子どもの生活リズム向上全国フォーラム in いしかわ」も同時開催。「なぜ、早寝早起き朝ごはんは大切な？」と題したシンポジウムも行われ、子育て中の家庭に向けて育児のノウハウが伝えられました。



TOPICS 3

親子の絆について
考えよう！

日本・親子の絆プロジェクト episode II スミセイ 子育てフォーラム ～子守歌の調べにのせて

＝10月4日 石川県立音楽堂

幼児とのふれあい経験のないまま親になったために、親子関係をうまく築けない親が増えているという今日、親子の絆について考えを深めてもらおうと「スミセイ子育てフォーラム～子守唄の調べにのせて」が開かれました。石川県立音楽堂邦楽ホールを会場に、日本子守唄協会の協力のもと、住友生命健康財団といしかわ子育て支援財団の共催で実現しました。

フォーラム前半は、脚本家の市川森一さんと日本子守唄協会代表の西館好子さんの対談や、母と子の絆をテーマとした朗読劇で構成。現代における親子の在り様が真摯に模索されました。後半は一転、懐かしい子守唄の数々が披露されて場内は和やかな雰囲気。親子連れは子守唄の調べを口ずさみながら、ふれあいのひとときを過ごしました。



TOPICS 4

虐待から
子どもを救おう！

児童虐待防止 オレンジリボンキャンペーン

＝11月6日～8日 オレンジリボン広場／金沢駅もてなしドーム
＝11月8日 オレンジライトアップ／金沢城石川門

子どもの虐待防止をめざす「オレンジリボン・キャンペーン」が全国で進められています。石川県でも毎年キャンペーン活動が展開されており、平成20年度は金沢駅もてなしドームと金沢城石川門の2会場で行われました。

金沢城石川門では11月8日の夕刻から、午後9時まで、夜空に映える石川門のやぐらをオレンジ色にライトアップ。観光客を



はじめ、多くの人々に児童虐待防止を呼びかけました。金沢駅もてなしドームでは、11月6日から8日までの3日間、児童虐待防止や子育て情報を掲載した、パネル展を開催。また、11月8日には園児や小学生たちのパフォーマンスがステージ上で繰り広げられたほか、グッズの販売などを通して道行く人へ啓発活動が行われました。



子育てのスペシャリストをパワーアップ

子どもを持つ親にとって、医師や教師、保育士といった子育ての専門家は頼りになる存在。社会の変化に伴い、子育てがますます難しくなる中、質の高いスペシャリストが強く求められています。いしかわ子育て支援財団は、子育てのプロたちのパワーアップを後押ししています。

保育所嘱託医・幼稚園医等研修会

石川県医師会と連携、保育所や幼稚園、学校などの現場で子どもの保健指導を行う医師、教師などを対象に、子どもの健全育成や育児指導への理解を深める研修会が本年度も開かれました。講師には、「こうのとりのゆりかご」の設置で話題を呼んだ慈恵病院（熊本市）の蓮田太二理事長と田尻由貴子看護部長をお招きし、病院の活動の紹介や、育児支援体制の不備に関する指摘などをお話いただきました。また、谷内江昭宏金沢大学教授の乳幼児の食物アレルギーに関する講演も併せて行われました。

＝10月5日 石川県地場産業振興センター新館

事業所内保育施設等保育従事者研修会

ワークライフバランスの重要性が説かれていますが、事業所内保育施設などは、まさにそのモデルケース。最前線の現場で活動する保育スタッフのための研修会が本年度も実施されました。（株）加賀屋のカンガルーハウス保育園からの事例紹介や、西田泰明わかば保育園園長の講義、源学ひばり保育園園長による実技指導などが行われました。

＝11月9日 石川県青少年総合研修センター

放課後児童クラブ指導者研修会

保護者が日中家にいない児童が通う、放課後児童クラブの指導員を対象とする研修会。指導員の質の向上をめざして毎年開催されており、本年度も加賀と能登、地区別に2回に分けて行われました。研修会では、児童健全育成推進財団の野中賢治企画調査室長が講演。モンスターペアレンツの問題や保護者とのかわりあいなどが説かれました。また、講演に先立って行われたあいさつの中では、指導員の倫理の向上が求められました。

＝11月11日 白山市鶴来総合文化会館クレイン
11月12日 いしかわ子ども交流センター七尾館



男性保育士・幼稚園教諭研修会で情報交換する参加者



保育所嘱託医・幼稚園医等研修会で講演する慈恵病院（熊本市）の蓮田太二理事長



加賀・能登地区放課後児童クラブ指導者研修会で講演する児童健全育成推進財団の野中賢治企画調査室長

男性保育士・幼稚園教諭研修会

保育園や幼稚園で働く男性が年々増加しています。とはいえ石川県の保育士総数5100人中、男性はわずか1.37%（平成20年度現在）。財団では、毎年男性職員のための研修会を開いて男性保育者の資質の向上を図る一方、悩みや課題を持ち寄って交流を深める機会の創出にも努めています。本年度も県内や富山県から48人が参加。日本保育協会石川支部長、長戸英明氏の講演の後、参加者による情報交換が行われました。

＝1月16日 石川県青少年総合研修センター

Nobody's Perfect 講座

“Nobody's Perfect”とは、子育て支援に先進的なカナダで生まれた、育児中の親支援プログラム。完璧な親などいない、自分にできる範囲の子育てをすればいいという考えが下敷きになっており、参加者同士で気軽に悩みを語り合い、知恵を出し合いながら自分なりの育児法を探る新しいスタイルの育児講座です。県内ではこの取り組みはまだ少なく、当財団では今回初めて実施されました。1歳から5歳の子を持つ親を対象に全6回行われ、進行役であるファシリテーターに導かれながら、親たちは日頃の育児についてフランクに話し合いました。

＝1月31日、2月7・14・21・28日、3月7日 石川県社会福祉会館内

「いしかわ子ども交流センター」スタート!

長年多くの親子に愛され、親しまれてきた県立中央児童会館が、平成20年4月、「いしかわ子ども交流センター」として装い新たにオープンしました。県立小松児童会館は「いしかわ子ども交流センター小松館」、県立七尾児童会館は「いしかわ子ども交流センター七尾館」とそれぞれ改称されました。

また本年度からは、いしかわ子育て支援財団が当センターを運営。子どもの健全育成と子育て家庭の支援を軸に、地域密着型の活動を多様な側面から展開しています。

開館を記念して式典を開催



開館記念式典が5月5日こどもの日、金沢市法島町の当センターで実施されました。谷本石川県知事による開館のあいさつの後、県の「こいのぼりを揚げようキャンペーン」の一環として20の子育て関連団体にこいのぼりを贈呈。数々の記念イベントも繰り広げられ、三千人を超える親子連れが祝日を満喫しました。

新センターでは、プラネタリウムなどの既存施設の充実化はもとより、先端技術や実際の仕事を実体験できるコーナーも拡充。NPO「子ども夢フォーラム」運営の「子どもの権利擁護支援室」が設けられるなど、子育てと子育ての両面からの機能強化が図られています。

また、開館を祝して、石川県出身のイラストレーター、高瀬のぶえさんの原画展も開催。メルヘンタッチの作品が新センターの壁を彩りました。



『いしかわ子ども交流センター』子どもの育ちと家庭の子育ての応援拠点

センター利用者が10万人を突破

9月14日、いしかわ子ども交流センターの利用者が10万人に達しました。老朽化の著しかった旧会館から新センターに変身した後5ヶ月間の累計来館者数は、前年同期比でなんと27%も増加。利用者ニーズに応えるリニューアルであったことが伺えます。10万人目となった小学生には、木製パズルと絵本が谷内厚子センター長から贈られました。

小中学生がお仕事体験

就労体験のテーマパークなどが脚光を浴びていますが、12月13日・14日の2日間、同様の就労体験プログラム「ミニいしかわ」がいしかわ子ども交流センターで初めて実施されました。参加した小中学生はまず、「ミニいしかわ」内の市役所で住民登録を行い、その後ハローワークで仕事探し。銀行員、保育士、販売員、製造業、新聞記者など16種の中から希望する職種を選び出して仕事を模擬体験しました。



労働の対価として模擬通貨「まっし」の報酬も与えられ、買い物などを通して経済の仕組みを学びました。

あかりを消して環境学習

温暖化防止のためにライトアップ施設などの電気を消そうと環境省が呼びかける「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」に、いしかわ子育て支援財団も参加。子どもたちに温暖化防止の重要性を訴えました。夏至にあたる6月21日、金沢市法島町のいしかわ子ども交流センターで「トワイライト・スクエア」タ暮れの木陰でおはなし広場を開催。ろうそくの明かりの中で、幼児から小学生までの約60人が温暖化防止のミニ講座を受け、朗読やトーンチャイム演奏を楽しみました。



いしかわ子育て支援財団 理事長表彰



子育て支援に功労のあった方たちへの表彰が行われました。財団理事長である谷本正憲石川県知事から、6団体と11個人に表彰状が贈られ、これまでの支援や尽力に感謝の意が表されました。

＝5月5日 いしかわ子ども交流センター開館記念式典

- 6団体
 - ・子ども夢フォーラム
 - ・自分を見つけるママの会 Snigel m.（スニーゲルマム）
 - ・片山津によきによき倶楽部
 - ・子育てサークルネットワーク わくわくサミット
 - ・金沢医科大学病院附属保育所
 - ・医療法人社団新村病院「こぼと保育所」

- 11個人
 - ・番匠 美津子 金沢医科大学病院附属保育所主任保育士
 - ・磯部 克美 育児サポーター・金沢
 - ・上村 悦子 育児サポーター・金沢
 - ・氣谷 幸枝 育児サポーター・金沢
 - ・坂本 昌美 育児サポーター・金沢
 - ・下 康子 育児サポーター・金沢
 - ・柿本 佳美 育児サポーター・小松
 - ・菊池 邦子 元こどもダイヤル相談員
 - ・山本 紀美子 元こどもダイヤル相談員
 - ・竹谷 利子 元こどもダイヤル相談員
 - ・吉田 詔子 元こどもダイヤル相談員

（敬称略）

● ● ● ● ● 行ってみよう! 見てもよう! 体験してみよう! ● ● ● ● ●



いしかわ子ども交流センター
〒921-8101 金沢市法島町11-8
TEL:076 (243) 6501 FAX:076 (243) 6774



いしかわ子ども交流センター小松館
〒923-0302 小松市符津町念佛3-1
TEL:0761 (43) 1075 FAX:0761 (43) 1076



いしかわ子ども交流センター七尾館
〒926-0024 七尾市古屋敷町力10-3
TEL:0767 (53) 3396 FAX:0767 (53) 3397

わからなかったら、困ったら――

お役に立つこと、 いろいろいっぱい。

子育て情報の発信はもちろんのこと、リサイクルショップから育児サポーターの派遣、物品貸し出しまで、いしかわ子育て支援財団は子育てに関するさまざまな情報を提供しています。いつでもお気軽にご要望をお寄せください。

いしかわおやコミ!.net

イベントカレンダーや動画が増えて、ますます便利にリニューアル。育児情報や不審者情報、交流やメール相談など役立つ情報満載。

<http://www.i-oyacom.net/>

子育て支援人材データバンク

web

子育ての分野で活躍中の専門家が集合する人材データバンク。ジャンル別や職業別に、ホームページ上で手軽に人材検索ができます。

子育て関連の講師をお探しのグループ、団体の方はぜひご利用ください。講師の連絡先については財団までお問い合わせください。

分野別一覧
職業別一覧
で検索できます。

メールマガジン

web

ケータイ

子育てに関するイベントやセミナー、お役立ち情報、感染症情報などをメールでおとどけています。パソコンでも携帯電話でもご利用いただけますので、ぜひ登録ください。



メールマガジン

イベント・セミナー・子育てに関する情報 ● 月1回程度配信
感染症情報 ● 毎週1回配信

イベント情報

web

子育てに関するイベントやリサイクルショップの日程など、お役立ち情報を[カレンダー]と[新着順]で紹介。イベントのある日は日付が黄色に塗られているのでチェックしてみてください。イベント情報の掲載申し込みはホームページ上からも行えます。

2月		3月		4月	
日	月	火	水	木	金
1	2	3	4	5	6
8	9	10	11	12	13
15	16	17	18	19	20
22	23	24	25	26	27
29	30	31			

日付をクリックすると詳しい情報を見ることができます。

イベントがある日 今日



このHPは、平成20年度郵便事業株式会社年賀寄付金の助成を受けて制作しました。

子育てメール相談

web

ケータイ

ホームページでも携帯電話でも手軽にアクセスできます。子育てに関することなら何でもご相談ください。専門相談員がメールでお返事します。

※緊急を要するもの、生命に関わるもの、医療・健康上のご相談は、専門機関にお尋ねください。

パソコン
<https://www.i-oyacom.net/ouen/mail/>
ケータイ
<http://www.i-oyacom.net/mobile/mail/>



メール相談

育児用品リサイクルショップ

web

いらなくなった子供服や育児用品などを持ち寄って売るリサイクルショップです。毎回大人気。金沢地区ではいしかわ総合スポーツセンターを会場に開催されています。お買い物はもちろん、出店も大歓迎。サークル仲間やお友達同士でお店を出してみませんか。

※詳細は財団へお問い合わせください。日程などはホームページでもご覧いただけます。

子育て便利帳

子育てに便利な情報が満載。「預ける」「集う」「相談する」「利用する」のテーマ別に、頼れる施設やサービスを紹介しています。電話帳として利用できる「資料」もあります。



休日相談室【相談時間】13:00～16:00

web

平日は忙しくて時間のない方のための休日育児相談室。県内各地のデパート・スーパーなどで開設しています。保健師または助産師などによる無料保健相談も行います。お気軽にどうぞ。

金沢相談室		
香林坊大和7階 親子休憩室横 相談室		【毎週日曜日】
金沢相談室		
めいてつエムザ7階 ベビーサロン		【第1日曜日】
小松相談室		
アル・プラザ小松2階		【第2・4日曜日】
白山相談室		
ジョイモール2階 親子よこびの広場 あさがお内		【第1～4日曜日】
加賀相談室		
アビオシティ加賀2階 ちびっ子広場内		【第3日曜日】
かほく相談室		
イオンかほくショッピングセンタージャスコかほく店2階 ベビーコーナー		【毎週土曜日】

貸出&ライブラリー

web

いしかわ子育て支援財団には、育児教室や育児サークル、子ども向けイベントなどで活用するためにご寄贈いただいた遊具や着ぐるみがあります。どれも無料で貸し出していますので、ご利用になりたい方はお気軽にお申し込みください。

- 着ぐるみ(8種類)
- 積み木セット
- 「台所育児食育調理」&「子ども用調理器具」
- トーンチャイム
- ふわふわうさぎ
- 本&DVD・ビデオ
- 遊具&教材

おはなしてぶくろ／ミュージカルかみしばい
パネルシアター／かみしばい など



ミルクCarが イベントでも大活躍

「ミルクCar」は、「ミルクBar」(ミルクの試飲コーナー・オムツ替えや授乳スペース)機能を搭載した便利なミニバン。

子育てイベントで大人気の「ミルクBar」の移動が容易になり、各方面で大活躍中です。



(金沢信用金庫より贈呈)

子育てのプロが サポートします!

当財団に登録いただいている有資格者(保育士、幼稚園教諭、看護師など)の育児サポーターが、イベント保育室の一時保育、子育て教室や育児サークルでの手遊び指導、パネルシアター上演などで活躍しています。お手伝いが必要なときはぜひ声をおかけください。

わくわく子育て教室

保育所や幼稚園を開放して育児教室などの子育てイベントを開きたい方はご相談ください。育児サポーターがお手伝いします。

イベント保育室

コンサートなどのイベントで臨時保育室を開催する際、サポーター派遣や遊具貸出を行います。

「親業」モデル人形劇派遣

子育て経験の少ない親に、人形劇を通して子どもへの接し方やしつけを教えると同時に、「親業」の大切さを伝える全国初の取り組みです。ご要望に応じて出前上演します。

育児サークル支援

地域で自主活動が続ける育児サークルに、遊びやゲームを指導。サークルの運営を後押しします。

おはなし広場

子育てへの理解と支援を促すために、デパートのイベント広場など、誰もが気軽に利用できる場で開催する子育て教室です。ご希望の場所で出前開設します。

「エンゼル・サポート事業」(県民参加型ふるさといしかわ子育て応援事業)



「エンゼル・サポート事業」とは、県民が気軽に子育て支援に参加できる環境を、企業の協力のもとに整備していくものです。石川県から応援企業と認定された企業は、県民が子育て支援に寄付する仕組みを構築し、県民の寄付を取りまとめて提供。いしかわ子育て支援財団の事業に活かしています。現在の認定企業は、北國銀行、東京ストアー、サークルKサンクス、サンクス☆ホクリアの4社。応援企業は引き続き募集しています。



企業名	認定した取り組み
株式会社 北國銀行	北國ポイントサービス「ハッピーズ」を活用した寄付
株式会社 東京ストアー	買物ポイントサービスの活用及び募金箱の設置による寄付
株式会社 サークルKサンクス	募金箱の設置による寄付
株式会社 サンクス☆ホクリア	募金箱の設置による寄付

ご協力いただける企業を募集しています!

おやコミnote

平成21年3月発行(掲載されている内容は平成21年3月1日現在のものです。)

財団法人いしかわ子育て支援財団

〒920-8557

金沢市本多町3丁目1番10号(石川県社会福祉会館内)

TEL:(076)262-1530 FAX:(076)262-1540

[URL] <http://www.i-oyacom.net/>

[E-mail] info@i-oyacom.net



おやコミトップページ



アクセス
 ■バス / JR金沢駅東口から約25分
 ■タクシー / JR金沢駅東口から約15分